

# rapora

ラポラ

2

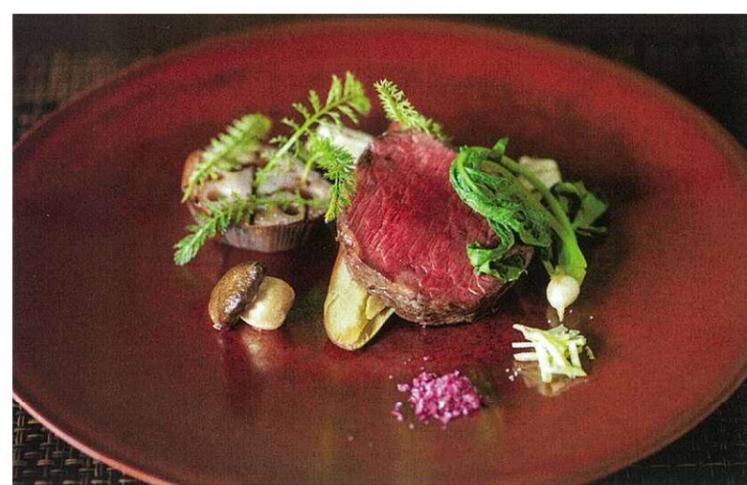
February  
2019  
No.177

兵庫・丹波篠山  
“城下町”という  
ホテルに泊まる。

美しいなまえ  
HOKKAIDO GOOD JOB!  
北海道発 HAPPY NEWS  
北の手しごと。  
TOKYO HOLIDAY  
教えて! 夢の叶え方。

氷  
特集  
の  
世界。





左上/ONAEのディナーでサーブされる「但馬牛のステーキ」。ソースはなく、塩とワサビでいただくひと皿。しっとりとした火が入られた牛肉は、素材そのものの味わいが堪能できる。付け合わせの野菜も、焼く、茹でるなど、ひとつひとつ調理法を変えるというこだわり。中/エントランスにある、かつて土間だったスペース。3連の窓がいまも保存されている。左下/蔵を改装したロフト付きの102号室とレストランから望む風情ある中庭。

篠山の400年の歴史という、時空を旅するホテル。

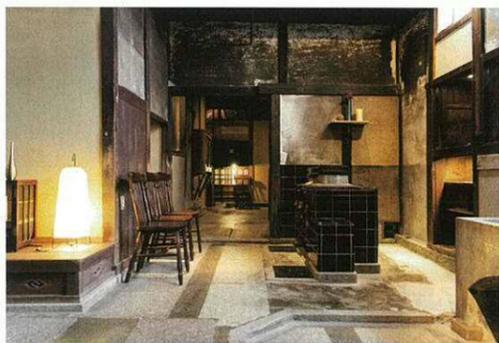
**約** 400年前に形成された城下町の面影をいまでも色濃く残す兵庫県篠山市。神戸空港、京都、大阪から車で約90分とアクセスしやすく、休日には主に関西居住者が癒しを求めて訪れる。食の恵みも豊かで、10月には丹波の黒枝豆を求める人で大渋滞が発生。猪の日本三大産地でもあり、猪猟が解禁になると町中に「ぼたん鍋」の幟が立つ。

さて、そんな丹波篠山で熱い視線を浴びる「篠山城下町ホテル NIPPONIA(ニッポニア)」。古民家の再生活用事業を展開する「一般社団法人ノオト」によってプロデュースされたこの宿は「城下町をひとつのホテルに」というコンセプトで始まった。

篠山城跡を取り囲むように7つの宿泊棟が点在するNIPPONIA。この7棟で「ひとつのホテル」だという。江戸・昭和期に建てられた古民家を、当時の趣を残しながらリノベーション。歴史的価値の高い宿と、地域の豊かな食

を扱う飲食店、各所に残る史跡や資料館などと連携し、城下町を楽しみながら、溶け込むように泊まるという新しい発想のホテルだ。

NIPPONIAのメイン棟「ONAE」は、明治期に建てられた銀行経営者の元邸宅。ほかにも「NOKONI」「YOMENA」などの棟があるが、宿泊者はまずONAEに立ち寄り、チェックイン。ONAEのエントランスには、かつてここが土間であり、日々の



暮らしたや営みが目に浮かぶような立派な竈が。その奥や2階には、離れ・茶室・蔵・女中部屋などを改装し、間取りも雰囲気も異なる客室が5つ。モダンな欄間、天井を横断する梁、意匠を凝らした網代天井、土壁の傷もそのままに。

さらにこの棟には、関西フレンチの重鎮・石井之悠シェフ監修の、和とフレンチを融合させたレストランを併設。食材は篠山産が中心。料理からも地域の文化や恵みを感じてもらいたいという計らいだ。

「このホテルに来てよかった、というよりも、篠山に来てよかった、と思ってもらえたら」とチーフの沖田さんは話す。

**Information**

篠山城下町ホテル NIPPONIA(ニッポニア)

● 兵庫県篠山市西町25番地 ONAE棟(フロント・レストラン棟)  
☎ 0120-210-289 (NIPPONIA 総合予約受付 11:00~20:00)

神戸空港から車で約1時間のアクセス:神戸空港から阪神高速に乗り福知山方面へ。舞鶴若狹自動車道「丹南篠山口IC」を降り、篠山市方面へ約90分。

# 城下町というホテルに泊まる。

AIRDOが着く空港からの旅 ↓ 兵庫・丹波篠山



城下町をひとつのホテルに見立てる——  
そんなコンセプトを掲げる  
〈篠山城下町ホテル NIPPONIA〉。  
神戸空港から車で約1時間半の丹波篠山には、  
いまもなお、江戸期や明治期の建物が軒を連ねる  
城下町が。篠山の日常に溶け込みながら、  
文化、食の恵みを味わい尽くす旅へ。

photo: Akiho Mizuno text: Kiyoko Hayashi

NIPPONIAスタート当時から宿泊客を迎えてきたONAE棟。元家主が愛着ある家を手放す際、新築の話を持ちかける業者が絶えないなかで、歴史的建造物を再生活用するというノオトの思いに共感。プロジェクトの第1弾物件候補となった。